

12/11(土) まじり！倫理号です。この後始末です。日々もろびけい 11月も12月
やはり節目〜はあはれにせい切です。

今週の

倫理

12月のテーマ | 後始末

幸世運心師一鳥

2021. 12. 11~12. 17

1259号

多くの経営者にとって、会社を永続させることは一つの命題です。その永続の条件とは何でしょうか。それは節目をつけ、引き継ぐことです。

現存する世界最古の木造建築物は、奈良県にある法隆寺・五重塔です。六〇七年に建立され、その後、焼失後に再建されて以来一三〇〇年以上に亘って現存しています。そこには日々のメンテナンスや大修理などたゆまぬ努力があります。一方で、この法隆寺がいつまで現存していけるか、と問われれば、保存修復の歴史をたどって、正しくメンテナンスを永続する他ありません。

一方で、同じく約一三〇〇年に亘って現存してきたと言われる伊勢の神宮はどうでしょう。二〇年に一度の式年遷宮によって建て替えられるため、その建築物としての寿命は二〇年です。しかし、二〇年に一度、そのままの姿を常に新しく建て直しをしてきました。建造物としては新しいですが、その姿は一三〇〇年前から現在に至るまで変わりません。式年遷宮が行なわれたいという根本的な変化が起こらない限り永続することでしょう。

あくまで仕組みの話ではありますが、いくら耐用年数が高いものであっても、いつかは朽ち果ててしまうものです。しかし、一定の期間で常に更新を繰り返すものは、原則として永続していくと考えられます。

有限の繰り返しですが、無限となるといえるかもしれません。換言すれば、人間には寿命があるからこそ、その命（存在）を連続



節目が企業を永続させ より良く生きる鍵となる

とつないでいき、新たな環境に適應できる遺伝子が残り、現存しているのでしょうか。会社も、どれほど優秀な経営者が存在したとしても、その経営者には寿命という期限があります。事業を継承し、繰り返すことで企業は永続できるのです。

大切なのは、節目のつながりの強固さと、日々の充実度合の二点でしょう。竹は節目が強く、かつその間もまた強固であるからこそ、しなやかな強さを備えています。

節目のつながりの強固さとは、「変わらないもの」の継承度合です。経営において変えてはいけない大切なもの、例えば創業者の想いをどれほど深く、強く継承しているかが問われます。人が変わるからこそ、変わらないものが大切になってくるのです。

節目の間の充実度合とは、立場の自覚とその働きの大きさです。私達は様々な立場で世に働きを得ています。その立場をより深く強く自覚することにより、働きを大きくし、自身の周囲をより強く結びつけます。

一個人としても同様でしょう。日々は厳然と流れていきます。節目をつけ、「変わるもの」と「変わらないもの」の確認をしつつ、自身の生き方を充実させることが重要です。

年末年始は大きな節目となります。今年一年を振り返り、何が変わり、何が変わらなかったのか、どのように身の回りが良くなったのかを確かめましょう。自ずと次の課題も見えてきます。明日の充実とより良い人生のヒントが見つかることでしょう。